

土木と私

株式会社フジタ 経営改革統括部
エネルギー・インフラ事業統括部
エネルギー事業推進部

● 石川 晴加
いしかわ はるか



自己紹介

私の実家は千葉県浦安市です。人工物ばかりの埋立てられた住宅密集地で育ちましたが、登山好きな父親の影響で頻繁に山梨へ行っており、そこで知り合った同年代の子供たちと山や川や畑で遊びまわっていました。私の原風景は、当時の山梨の自然の中で皆と過ごした楽しい時間です。

高校ではそんな子供時代の影響で山岳部に入り植物に興味を持ちました。大学では人と植物の関わりについて学べる造園分野の学科に入り、里山や植物の生態について学びました。当初は造園会社就職しようと考えていましたが、いざ就活時期に入ると、東日本大震災で実家が液状化被害を受けた際に感じたインフラの重要性を強く意識するようになりました。その結果、造園分野だけでなく、人が生きるための重要な基盤づくりである、土木も含めた広い視野で仕事したいという思いから、まちづくりに強い株式会社フジタへの就職を決め、土木技術者として従事しています。

これまでの業務について

土木技術者として入社し、最初の三年間は土木の施工管理の業務として主に二つの現場に従事していました。最初に配属されたのは、神奈川県内の土地区画整備事業の基盤整備工事です。

た。複数業者が同時進行で施工をする中で、業者間の調整等を行うのが大変な現場でした。私自身は、調整池工、盛土工、雨水幹線工等の安全・品質・出来形管理等に携わらせていただき、新入社員で何もわからない中、先輩職員・職長・作業員の方々から沢山のことを教えていただきました。様々な役割の人が、共通の目的に向かって協力しながら進んでいる一つの組織であるということを改めて認識出来ました。

次に配属されたのは、水道本管布設替えのためのミニシールド工事の現場でした。深さ約三〇mの発進立坑工の施工を担当し、深く狭い坑内での重機作業と、掘り進めた土砂を搬出するバケットの昇降を安全かつスムーズに行う方法を検討しました。また、硬い泥岩層の掘削に際して、技術的課題を皆で検討し、対策を講じて解決出来たことが強く印象に残っています。

四年目からは、昨今のカーボンニュートラル2050に向けた会社方策の一つとして、再生可能エネルギーの発電所を自社開発することを目標として設立されたエネルギー事業推進部という新設の部署に配属となり、小水力発電所の開発に携わるようになりました。各地の河川を調査しながら開発の可能性のある地点を見つけ、関係諸官庁や周辺の地域関係者様と協議・相談をしながら発電所の完成に向けて事業を進めていくための段取りをしていく業務です。今までの業務とは異なり、プロジェクトが始まる前までの調整は、施工現場とは違う視点での苦労や課題があります。携わった現場でも開発でも、自分一人だけではできないことが沢山あり、様々な立場、役割の方々の協力なくしては決して完成しないものであると感じています。

これからライフイベントについて

私は入社してから今まで、女性だからという理由で大きく困ったことは特にありません。施工管理に従事していた時も、



小水力発電所開発プロジェクト視察時

女性専用更衣室やトイレ等は設置されましたし、業務においても自分自身の至らないところをフォローしていただき、沢山の方に様々なことを教わりました。

ただ、これから先どうしてもライフイベントとして直近で向き合っていないといけないのが、出産・育児だと思っています。

現在同期の女性土木技術者のうち、一人が産休に入り、一人が産休後復帰し時短勤務で働いています。私自身も昨年度良いい縁があり、結婚しました。結婚相手も同業他社の施工管理職の為、単身赴任も多く、現在の生活は、平日はそれぞれ独身時代と変わらず過ごし、休日は二人で外出や料理などをして、

一緒にのんびりと過ごしている状況です。

ただ、出産・育児の件については将来のイベントとして二人とも意識はしていますが、まだ体制について話しあっていないのが現状です。私自身は、実際に子育てをすることになるなら、きちんと時間を作って子供と向き合って過ごしたいという気持ちと、技術者として経験と知識を身に付けていきたいという気持ちがせめぎあっています。

相手方も子育てに意欲的ではありませんが、単身赴任の可能性が高い以上、離れ離れで対応出来ない時期もあると思います。

フジタでは、ダイバーシティを推進する取り組みの一つとして、F-netという組織があり女性活躍推進を目的に様々な活動に取り組んでいます。F-netランチ

コミュニケーションという交流会があり、様々な部門の先輩女性社員の皆様の経験などを聞くことが出来る機会がありました。今秋には土木系女性総合職のみで集まり、これからのライフイベントに向けて話し合う機会もあります。

まだ、私自身どのようにしていくのか方針が決まっているわけではありませんが、そう

いったせっかくの機会を通して色々な経験談や意見を聞きながら今後のライフプランを考えていきたいと思っています。



趣味の登山 赤岳山頂にて

石川さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、高専を卒業して選んだ建設会社で私が経験してきたこと、今後も仕事を続けていくために考える、若手土木技術者として、女性技術者としての様々な課題についてお話ししたいと思います。

若築建設株式会社
ダイハツ陸橋撤去作業所

内海 祐希

